

小学校 特別活動 中学校 特別活動

1 ICT活用のポイント

○特別活動の特質である「集団活動、実践的な活動」の代替としてではなく、児童生徒の学習の場を広げたり、学習の質を高めたりする道具として、場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用する。

特別活動の方法原理は「なすことによって学ぶ」であり、**直接体験が基本**です。学習過程に合わせて**活用場面や活用内容を選択**し、「ICTを使用すること」が授業の目的にならないようにすることが大切です。

2 実際の活用例

- ・アンケート機能を活用し、結果を共有することで、児童生徒が議題や題材を自分のこととして捉えやすくする。
- ・授業には参加できない人（他学年の児童生徒、給食の調理員さんなど）のインタビュー動画を作成する。
- ・共同編集機能を利用して、グループで話し合った結果を表にまとめる。
- ・ホワイトボードソフトと付箋機能を用いて、端末上で思考ツールを使った話し合いをする。



- **話し合いを深める**ための活用をする。（内容理解の補助、時間の確保など）
- 時間や場所が限定されない**メリットを生かす**。
- 「活用するため」だけの活動にならないようにする。

3 実践事例の紹介

【小学校・3年・特別活動・「自己のよさの伸長」】

育成を目指す資質・能力

B1（個に応じた学習）

自分のよいところを生かして、学級のためにできることを考え行動しようとする。

ICT活用のポイント

【活用したソフトや機能】ホワイトボードソフト 付箋機能

取組で見つけた友達の良いところを、クラウド上のカード（付箋）で送り合う。

学習の流れ

道徳の授業「個性の伸長」の学習を通して、自分のよさについて考える。

「よいところ探し」の取組で、友達の良いところを見つけてカードを送り合う。

友達から送られたカードから自分のよさを生かした生活目標を考える。

一人一人が意思決定した目標を意識して実践、振り返りを行う。

事例の概要

本事例は、道徳科の「ぼくらしさってなんだろう」（個性の伸長）の学習と関連し、設定された題材である。

相手の頑張り、性格や行動、他者との関わり方などの視点を与え、具体的な姿を認め合えるように指導しながら、「よいところ探し」を行い、付箋機能を使って直接本人にメッセージを送る。

自分に届いた友達からの意見をまとめ直すことで、自分のよさを再認識し、「自分のよいところを生かして、クラスのためにできること」を考え、目標や取組を意思決定する。

実践・振り返りを通して、「なりたい自分像」が具体的になったり、「自己肯定感、自己有用感」が高まったりしていくことが期待できる。

【中学校・全学年・特別活動・「身に付けたい力交流会」】

育成を目指す資質・能力

C1（発表や話し合い）

集団の形成者として、多様な他者と積極的に学校生活の向上を図ろうとする。

ICT活用のポイント

【活用したソフトや機能】アンケート機能 学習支援ソフト 表計算ソフト

アンケート機能を使って、グループを作成したり、話し合いの資料として共有したりする。

学習の流れ

アンケート機能を使って、「身に付けたい力」などの調査をする。

グループ分けと、話し合いの進行方法や留意点を生徒会役員が話し合う。

共有資料を参考に、それぞれのグループで話し合いを進め、最後に個人で目標を意思決定する。

一人一人が意思決定した目標を意識して実践、振り返りを行う。

事例の概要

本事例は、生徒会活動において、活動目標を達成するために、学年を越えたグループ（異年齢集団）の話し合いを行い、様々な意見を取り入れながら、一人一人が意思決定する活動である。

この実践では、アンケート機能や表計算ソフト、学習支援ソフトを用いて、作業の効率化を図り、話し合いを円滑に進めることができた。具体的には以下のとおり。

- ・取組前後の記録から、生徒一人一人の変容を見取る。
- ・表計算ソフトを利用して短時間でグループを作成する。
- ・アンケート機能で作成される表計算ソフトのシートを、話し合いの資料として共有する。
- ・学級担任が、評価資料として参考にする。

Webサイトには、上記の実践以外に、次の事例も掲載しています。

- 小学校5年・・・思考ツールやインタビューを取り入れた実践
- 中学校3年・・・共同編集で話し合いをリアルタイムで共有する実践

